



新年あけましておめでとうございます。

エネ研は昨年の開所10周年を経て、今年は新しい10年に向かう節目の年になります。昨年は共同研究数(86件)の増加や特許申請(7件)などの成果が現れてきましたが、各職員一丸となり、世界に羽ばたくエネ研へと挑戦していくよう努力してまいります。

本年も皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



財団法人若狭湾エネルギー研究センター
理事長 旭 信昭

新しい10年に向け、スタート！ Start！！

変化に臆せず挑戦！ Challenge！！

Yes WERC Can do that！！

理化学研究所との共同研究はじまる！

財団法人若狭湾エネルギー研究センターと独立行政法人理化学研究所は、福井県が推進する「エネルギー研究開発拠点化計画」(研究開発機能の強化)の一環として、「イオンビームを用いた新しい品種改良技術の開発」に共同で取り組むこととしました。

- 1 共同研究期間 平成20年12月から平成22年3月末(予定)
- 2 研究目的と概要

食糧事情の逼迫、植物のエネルギー生産への利用など植物の品種改良はますます期待が高まっており、その改良効率の向上が重要となってきた中、エネ研と理化学研究所は、それぞれの加速器を用いた品種改良技術の蓄積を相互活用し、研究を進めていきます。

具体的には植物、菌類、細胞にイオンビームを照射して行う突然変異育種の効率性を高めるものです。



上)エネ研で品種改良に用いている加速器(シンクロトロン)

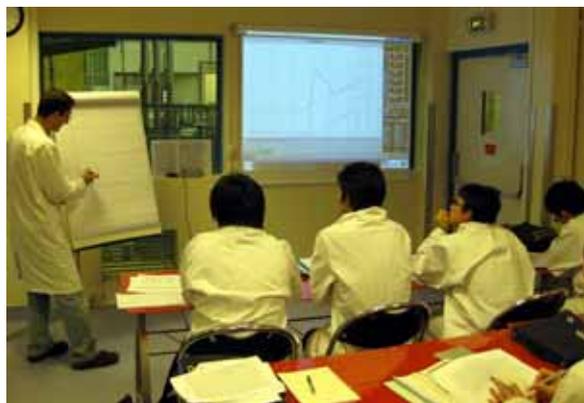


左)エネ研では多くの植物の品種改良に取り組んでいます

「敦賀原子力夏の大学」 海外研修(仏国)

昨年に続き 2 回目の開催

「平成 20 年度敦賀原子力夏の大学」の参加者 43 名の中から選抜された 7 名の学生が、原子力に関する国際的な見識と視野を高めるため、去る平成 20 年 12 月 8 日(月)から 12 月 12 日(金)まで原子力先進国であるフランスで海外研修を実施しました。研修先はフランス原子力庁(CEA)の教育機関「INSTN」、稼働中の高速増殖炉原型炉「Phenix」、最新の MOX 燃料製造施設「MELOX」などです。



本年 9 月の「夏の大学」以来 3 ヶ月ぶりの再会となる学生(福井大学 3 名、県外大学 4 名)と教員等(5 名)の一行は、フランス滞在の間、仏国の最新の技術の学習や文化の体験などにより交流を深めました。

仏国での講義や説明はすべて英語だったため、学生たちはコミュニケーションツールとしての英語の大切さを痛感しました。教員たちも講義や実習のキーポイントを再認識するなど、今後のカリキュラム編成等に大いに参考になると評していました。

原子力教育機関「INSTN」の教育用原子炉を用いた原子炉運転制御の体験授業。



仁木団長(福井大学教授、左から 3 人目)と訪仏したメンバー。高速増殖炉原型炉「Phenix」にて



PWR 運転シミュレーション装置

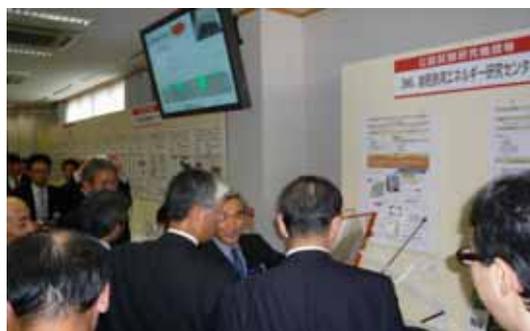
「敦賀原子力夏の大学」は平成 21 年度も実施する予定です。多くの学生の参加を期待しています。

産学官連携写真フラッシュ!!!



未来技術創造セミナー「技術シーズ発表会」12 月 9 日
電子線照射利用の現状と展望

電子線など放射線を照射するいろいろな用途で製品や検査ができることや美浜に建設予定の照射施設の内容が発表されました。



大手メーカーとの展示商談会

これまでのトヨタ、デンソーに続き、今年度はスズキ(11 月 20、21 日浜松)、コマツ(11 月 14 日枚方)において、県内企業とエネ研が商談会に出展し、各技術や商品をアピールしました。



「三菱電機」との情報交換会を開催
10 月 31 日

電力システム製作所を県内企業 31 社が訪問。写真は旧式の発電機ローターですが、工場内では最新式のローターが製作中でした。



フクイラブルは「チーム・マイナス6%」のキャラクターチーム員です。